

令和5年度  
広島市平和式典  
派遣者報告書



船 橋 市

## 目次

1. はじめに	-----	1
2. 平和都市宣言文	-----	2
3. 派遣スケジュール・行程表	-----	3
4. 派遣者名簿	-----	4
5. 派遣場所の報告	-----	5
6. 派遣者の報告（感想文）	-----	12
7. 事前説明会及び市長報告会の様子	-----	24
8. 平和記念式典報告	-----	25
9. 平和記念式典式次第	-----	27
10. 広島平和宣言	-----	28

## はじめに

昭和20年8月6日に広島、9日には長崎に世界で初めて原子爆弾という兵器が使われ、多くの尊い生命が一瞬のうちに奪われました。あの日から78年が過ぎました。

いま、戦争体験、被爆体験をされた方が少なくなっていく中で、戦争や原爆の悲惨さ、世界の恒久平和がいかに大切かということ、次世代にどう伝えていくかが大きな課題になっています。

船橋市は、昭和61年12月に、世界の恒久平和を願うとともに、核兵器の廃絶を目指して「平和都市宣言」を行いました。これを機に、毎年、平和の集いや平和写真展、そして広島や長崎で行われる平和式典への市民の派遣などの事業を通して、市民の皆様と一緒に平和の尊さについて考える機会を作るという取り組みを行なっています。

平成5年から始めたこの平和式典派遣事業も今回で29回目となり、今年広島市に派遣した6人を含め、これまで延べ274人の市民を派遣してきました。

この報告書は、今回広島へ派遣されたこれからの船橋を担っていただく若い世代の皆さんが、現地で実際に肌で感じた貴重な体験を取りまとめたものです。市民の皆様には是非御覧いただき、平和の尊さ、戦争の悲惨さについて語り合ってください。平和式典派遣事業の意義はさらに深まるものと考えています。

船 橋 市

# 平和都市宣言

船橋市は、現在人口五十一万を擁する首都圏有数の中核都市に成長し、第二の飛躍期を迎えている。そして、「活力ある近代的都市」を市政の目標に掲げ、より豊かな福祉社会実現のため懸命な努力を続けているところである。

しかし、郷土船橋の限りない繁栄は、日本の安全と世界の恒久平和なくしては望み得ないものである。

私たち船橋市民は、世界の恒久平和を願い、我が国の国是である非核三原則を遵守し、平和を脅かす核兵器の廃絶を目指して最大の努力を払うことを決意し、ここに「平和都市」を宣言する。

昭和六十一年十二月十九日

船橋市

## 《派遣スケジュール》

4月	派遣者公募
7月21日	説明会 ～行程説明、自己紹介等～
8月5日～7日	広島市派遣
8月21日	市長報告会及び平和式典派遣者報告準備
10月14日	平和式典派遣者報告（「平和の集い」において）
12月	報告書完成、公表

## 《広島市平和式典派遣 行程表》

8月5日 (土)	JR 船橋駅（集合）－東京駅－広島駅－現場学習（平和記念公園、原爆ドームなど）－ホテル
8月6日 (日)	ホテル－平和記念式典（平和記念公園）－被爆体験講話（広島国際会議場）－袋町小学校平和資料館－広島平和記念資料館－広島原爆死没者追悼平和祈念館－ホテル
8月7日 (月)	ホテル－本川小学校平和資料館－広島城－広島駅－東京駅－JR 船橋駅（解散）

《派遣者名簿》

	氏名	性別	学年等	担当
1	えんどう まさはる 遠藤 政陽	男	高校1年生	班長
2	さんのみや あき 三宮 亜希	女	中学2年生	副班長
3	あらい みわ 荒井 美羽	女	中学1年生	報告書担当
4	きむら にこる 木村 仁冴瑠	女	中学3年生	平和式典報告担当
5	やまぎき ひよ 山崎 陽世	女	中学2年生	写真担当
6	ひらやま あきら 平山 晃	男	原爆被爆者の会	



(令和5年8月6日 平和記念公園にて)

## 《派遣場所の報告》

### 原爆ドーム



原爆ドームは、第二次世界大戦末期に人類史上初めて使用された核兵器により、被爆した建物です。

1915年に広島県内の物産品の展示・販売をする施設として建てられ、広島県美術展覧会や博覧会も催されてきました。1945年8月6日の原爆により、全壊はまぬがれたものの一部を残し、倒壊しました。

核兵器の惨禍を伝えるものであり、時代を超えて核兵器の廃絶と世界の恒久平和の大切さを訴え続ける人類共通の平和記念碑となっています。教科書やパンフレットに多く使われており、最も有名な被爆遺構としてこの日も世界中から多くの人々が訪れていました。

年々古くなっているため、このままの状態の後世に残すことは難しく、保存工事を行うなどしています。実際に見てみると「こんなに大きな建物が一瞬でこのような姿になってしまうんだ。そして本当に起こったことなんだ」と改めて実感し、紙や映像からは感じたことの無い気持ちになりました。

この建物は残すべきだと強く思いました。

## 原爆の子の像



幼い頃に被爆し、12歳で白血病のため亡くなった佐々木禎子さんをきっかけに、原爆で亡くなった子の霊を慰めるために建てられた像です。この像は禎子さんが亡くなって3年後の1958年5月5日に除幕式が行われました。建立を呼びかけたのは禎子さんの同級生たちでした。

像の真下にある石碑には「これはぼくらの叫びです これは私たちの祈りです 世界に平和をきずくための」と刻まれています。

像の周りには世界中から千羽鶴が捧げられ、まさに人々の平和への祈りを強く感じる場所になっています。

## 被爆した墓石

強烈な爆風で境内にあったたくさんさんの墓石も吹き飛ばされ散乱しました。被爆当時の姿で残されているこの墓（爆心地から約270m）は、広島藩浅野家年寄の岡本宮内のものです。平和記念公園は盛り土をして整地して造られたため、墓石周辺を石で囲み、公園内でこの箇所だけは被爆当時の地面をそのまま残しています。



爆風が吹いただけで墓石が崩れるなんてそれだけの威力があるということに驚きました。盛り土をした箇所と高さが違うことから、当時の地面の高さが分かり、現実感がありました。



## 韓国人原爆犠牲者慰霊碑



戦時中の労働力不足を補うため、多くの朝鮮人が日本で働かされ、敗戦時日本には約300万人の朝鮮人がおり、数万人が広島市内で被爆したといわれています。

「死者の霊は亀の背に乗って昇天する」という故事にならって、亀を形どった台座の上に碑柱が建ち、その上に双竜を刻んだ冠が載せられています。

普通に過ごしていただけの韓国人が異国の地で犠牲になったということが、戦争の悲惨さを物語っており、とても悲しく思いました。

## 平和の鐘



現在設置されている平和の鐘は、1964年9月20日、原爆被災者広島悲願結晶の会により建立されました。設計は故香取正彦さんです。平和記念公園北側にあり、西側の道向かいには原爆供養塔があります。

4本の柱で支えられたコンクリート製のドーム型の屋根

の下に梵鐘が下げられています。鐘の表面には、国境のない世界地図が浮き彫りにされ、撞座には原水爆禁止の思いをこめて原子力のマークが、その反対側にはつく人の己の心を写しだす丸い鏡が表現されています。

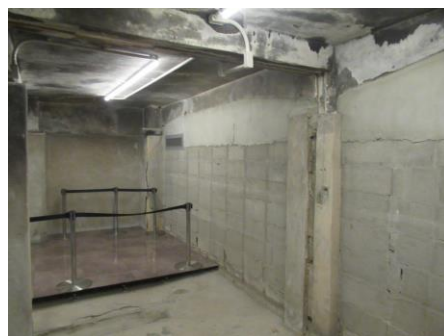
「国境のない世界地図のように人々の心が繋がって欲しい」という願いを、鐘の音に乗せて世界に届けるよう心を込めて鐘をつきました。

## レストハウス

爆心地から170mのところにあった建物は地下室を除いて全焼しました。しかし爆心地側に開口部のほとんど無い強固な建物だったためか、基本的形態はとどめられました。

被爆当日、この建物には37人が勤務していましたが、たまたま地下に書類を取りにおりにいた1人を除いて全員死亡しました。一瞬の行動の違いが生死を分けたことに、人生の、戦争の残酷さを感じました。

現在上階は売店や休憩室になっており、現代と過去の地下室が同じ場所に存在している貴重な建物でした。

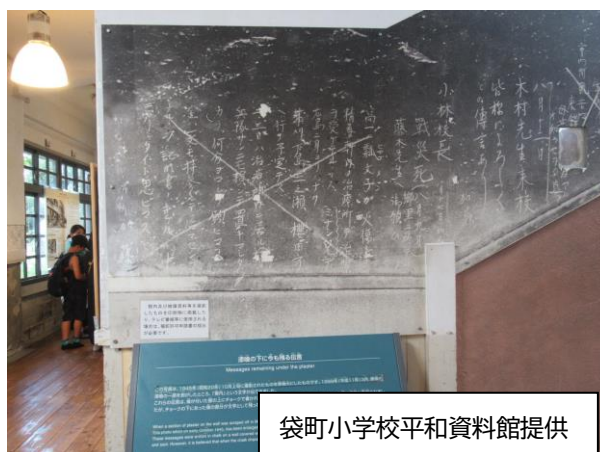


## 袋町小学校

爆心地から460mの位置にあった袋町国民学校は、木造校舎はすべて倒壊・全焼し、唯一の鉄筋校舎は外郭のみを残し、消失しました。窓枠も吹き飛ばされたり、湾曲したりしました。

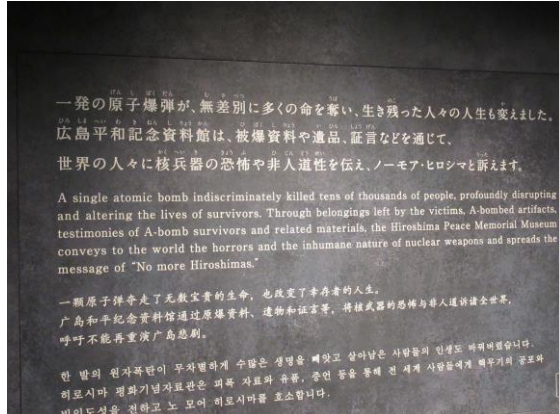
朝礼を終えたばかりの教職員、児童ら約160人は全員が直撃を受け、生き残ったのは数人だけでした。校舎は避難場所や救護所となり、階段室の壁面に被爆者の消息を知らせる多くの伝言が残されました。

ありとあらゆるところに伝言が書かれていて、沢山の人が大切な人のために伝言を書き続けた必死さを直に感じられました。



袋町小学校平和資料館提供

## 広島平和記念資料館



(広島平和記念資料館 寄贈者 新田 英明 塚本 ハナヨ)

原子爆弾による被害の実相を世界中の人々に伝え、ヒロシマの心である核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に寄与することを目的に、1955年に開館しました。

被爆者の遺品や被爆の惨状を示す写真や資料を収集・展示するとともに、広島の前爆前後の歩みや核時代の状況等について紹介しています。

また被爆者による被爆体験講話会等を実施するほか、平和学習のための資料の貸し出しも行っています。

海外の人もたくさん来ていてとても熱心に展示を見ている姿が印象的でした。世界平和を願う心は、世界共通だと感じました。

## 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

原爆死没者を追悼し、その惨禍を後世に伝えていくための施設です。

被爆者の記憶や思いを共有し、次の世代へ引き継いでいくために、被爆体験記や原爆詩の朗読会を開催しています。朗読者は本館に登録しているボランティアで、フリーアナウンサーや劇団員またはその経験者などがいらっしやいます。

起こったことを詩に表しそれを自ら口に出して読むことでその場の情景がより頭に浮かびました。悲しい気持ちでいっぱいになりました。



## 被爆遺構展示館

被爆の実相を直接見て肌で感じられるように、原子爆弾による被害の痕跡が残る住居跡やアスファルト舗装された道路跡などを露出展示しています。被爆当時の町並みの遺構を通じ、平和記念公園を訪れる人々に、「この地」にはかつて多くの人々が暮らす町があったこと、そして「この地」に暮らしていた人々の日常がたった一発の原子爆弾により一瞬にして失われてしまったこと、そして被爆後の先人たちのたゆまぬ努力により「この地」が平和の象徴としての公園として整備され、平和で美しい町として復興を遂げたことを見ることが出来ます。



頑丈な建物までもが崩れ落ちており、すべてがとても痛々しく感じました。露出展示されている事で、当時の空間がそのまま残っていました。

## 灯ろう流し



戦後まもなく、原爆で命を落とした人々の遺族らの手作りで始まったのが由来です。

夕刻から元安川に漂う幻想的な灯かりは、被爆者の霊を慰めるとともに、今を生きる人々の平和への願いを強くさせています。

原爆の残り火を採用して継承されており、誰でも気軽に参加できる慰霊行事となっています。

灯籠の明かりが映えてとても綺麗で儂く感じました。沢山の灯籠は、平和を思う沢山の人々を連想させ、その気持ちを川から海へ、そして世界へと優しく伝えてくれるようでした。

## 本川小学校

爆心地から350mで被爆し、その後幾度か補修・改修され、1988年に平和資料館として開館しました。

被爆の実相を後生に伝えるため、原爆の被害を受けた校舎の一部がそのまま保存されており、この建物自体が戦争の悲惨さと平和の大切さを直接訴えています。

います。

かつての教師が被爆地から集めた展示品などを見学することができます。また、漫画「はだしのゲン」の舞台となった小学校でもあります。

楽しく通っていたはずの小学校での被爆。地下室まで激しく焼けた跡があり、改めて原爆の残酷さを感じました。



本川小学校平和資料館提供

## 広島城



原爆投下で、一瞬にして原型がわからないほどに倒壊してしまいました。

1958年、開催される広島復興大博覧会に合わせて、天守が鉄筋コンクリート造の外観復元により再建されることになりました。現在の天守は博物館となっており、広島城の歴史や城下町の様子、浅野家に伝わる武具などが展示されています。

再建に至るまでの経緯を知ること、保存一つとってもいろんな考えがあり、様々な思いがあることを知りました。

## 《派遣者の報告（感想文）》



# 日常を一瞬にして奪った

## 原子爆弾

遠藤 政陽（高校1年生）

あの日、広島に投下されたたった一発の爆弾が奪った14万の命は、確かにそこで生きていました。

木々が青々とした葉を茂らせる8月5日、私たちは広島の街へ降り立ちました。まずはじめに訪れたのは、原爆ドームのある広島平和記念公園でした。そこでは何事もなかったかのように木々がそよぎ、蝉は騒々しいほどに鳴いていました。しかしこの場所は、78年前、今後75年は草も生えないと言われた焼け野原だったのです。私ははじめ、ここでたくさんの方が苦しみ、亡くなられたことが想像できずにいました。しかしながら、ガイドの方の解説や「ひろしま平和子どもの集い」での梶本さんの体験講話を聞き、その姿が臉の裏に鮮明すぎるほど映し出されました。あの日、お化けのような姿になった人々が、水を求め列を成して歩いていたこと。そうした人の多くが川へ入り亡くなられ、水面は遺体で埋め尽くされていたこと。そして運良く熱戦や爆風による被害を免れた人も、放射線が引き起こした原爆症に長い間苦しみ、亡くなられたこと。どれもとても生々しく、この世のものとは思えぬほど残酷なお話ばかりでした。しかし、これらは全て78年前に実際に起こったことなのです。

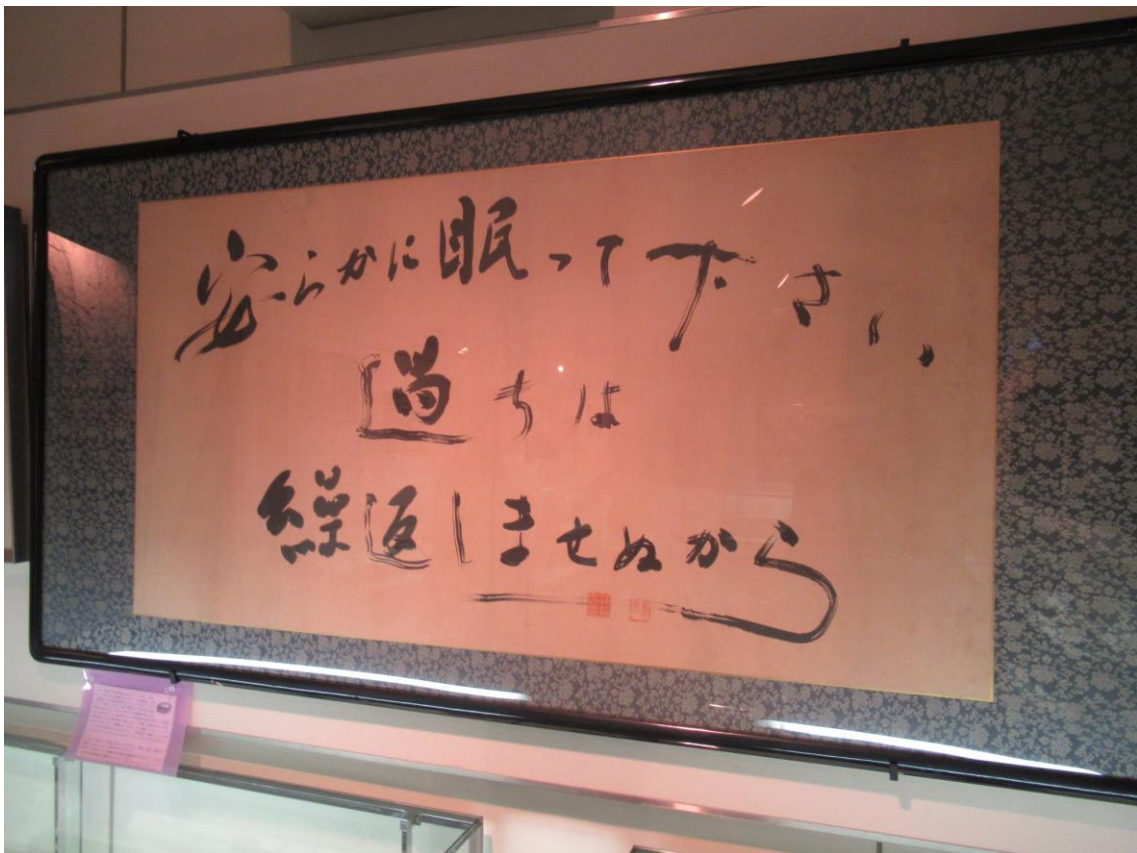
私はこれまで、戦時中の人々について、苦しい生活を送っていた人々だとばかり思っていました。しかしながら、中身まで黒焦げになった弁当箱や幼い子供の三輪車、「もう泣き虫じゃないでしょうね。けんかしないようにね、かわいい時子ちゃん」と綴られた疎開先の娘にあてた母の手紙などの平和記念資料館の展示品の数々が、物資は足らずとも今と大きくは変わらない日常や親子の愛情がそこにあったのだと教えてくれました。そして、そうした当たり前が一瞬にして奪われたのだということを改めて強く認識し、涙が溢れそうになりました。

ロシアによるウクライナへの侵攻をはじめとした戦争・紛争は今この瞬間も続いています。また日本を含め多くの国々は、ウクライナ侵攻を受け軍備を拡大する方針をとり始めました。確かに、「抑止力」という考え方も理解はでき

ますし、国を守るためには軍事力も必要なのかもしれませんが。しかしながらそれは、大勢の命を一瞬にして奪う核兵器による威嚇や、罪のない人々を殺めることを正当化する理由には決してなり得ません。私たちはきっと対話できるはずだと、資料館で目にした外国の方々の悲痛な表情が私にそう確信させました。核兵器による悲劇を二度と繰り返すことなく、戦争によって苦しむ人を一人でも減らすために必要なのは、対話を重ね、互いの違いを認め合うことです。これは、私たち一人一人が取り組まなくてはなりません。そうした小さな努力から、戦争や核兵器のない世界をつくっていくことができるのです。最後に、梶本さんのお言葉を紹介したいと思います。

「命を大切にしてください。

自分の命も、他人の命も、粗末にはしてはいけません。」



(本川小学校平和資料館提供)



## 広島市民の心に触れて

木村 仁冴瑠（中学3年生）

今なお原爆投下により、悪夢と後遺症に苦しむ沢山の被爆者がいます。それは単に過去のものではありません。広島平和記念資料館では被爆して亡くなった人たちの着ていたボロボロの衣服、石段に残った人の影、被爆によって背中にできた大きなケロイドの写真。人間が生み出した技術は使い方を誤るとこれほどまで、多くの人の命を奪うことができるのだと。

そして殺人兵器になるのだと。

平和式典に参加して、特に忘れられないのは首相の演説中に私たちのいる会場まで大きな抗議の声が聞こえたことです。なぜなのだろうか。調べてみたところ、日本は核兵器禁止条約に加盟しておらず、また、今年開かれたG7広島サミットでは核抑止を認め、核兵器廃絶への展望が全くみえなかった結果が背景にあったことだとわかりました。今も核兵器がなくなっておらず、広島や長崎の被爆者たちが憤りを感じるのも無理はないと強く思いました。

式典での広島市長の言葉には「まずは本年11月に開催される第2回締約国会議にオブザーバー参加していただきたい。」とのメッセージがありました。それはせめてオブザーバーとなってほしいという願いであり、同じ敗戦国で核の傘に入っているドイツがその席についているからです。全ての人々が原爆の無い社会の実現の努力を自分事として受け止めなければならないのです。

私が滞在した広島はコロナが明けたからなのか、沢山の外国人観光客がいて、資料館にも入館していて驚きを感じつつ、嬉しさもありました。外国の人に、ましてや敵国であったアメリカの多くの人たちにも日本人に同情してもらうのではなく、是非とも核兵器が存在する限り世界は決して平和、安全にはならないのだということを感じてもらいたい、そして核抑止という考えからすぐに脱却してもらいたい、そんな思いです。

年々、被爆者の人たちが少なくなってきました。次世代にも被爆の現実と核兵器がもたらした悲惨さを継承していかなければなりません。そして今も苦しんでいる人たちの心を癒すためにも核兵器廃絶を行う必要があります。また、核兵器の平和利用についても、見直す分岐点に来ているのではないのでしょうか。



核抑止論、つまり核兵器を持つことが有意義であるというのは間違いです。ロシアによるウクライナの武力侵攻により、ロシアは核兵器を脅しに使っていて今後本当に核戦争が起こり、人類が滅亡するかもしれません。日本を最後の被爆国にし、一刻も早く核兵器廃絶のために、まず核兵器そのものを不必要なものであると認識しなければならないでしょう。

私たち若い世代は核兵器廃絶を願う被爆者たちの思いを強く受け止め、身近にいる人や海外に住む友人にも核兵器の使用の真実を伝えていくべきです。また、日本から世界へ私たちの平和教育を広めていきたいです。世界中の人たちが核兵器が必要ではない、悪いものだという考えが根付かなければ核兵器はなくなると確信しますから。



(令和5年8月5日 広島平和記念公園にて 広島平和都市記念碑)



## 派遣事業を終えて

三宮 亜希（中学2年生）

1945年（昭和20年）8月6日午前8時15分、広島市の島内科医院の上空で一発の原子爆弾が炸裂し、約14万人の尊い命が一瞬にして奪われました。

原爆投下時、爆心地に最も近い学校として大きな被害を受けた本川小学校では、校舎の全焼と400名以上犠牲者がでました。被爆の際にたった一人だけ生き残った、居森（旧姓：筒井）清子さん（当時6年生）は、鉄筋コンクリートで出来ていた校舎の一階の、窓がない場所にいたため、奇跡的に助かったそうです。亡くなったお母さんと弟の写真は、原爆で焼けたため残っていません。写真がないために、お母さんと弟の顔を思い出すことが出来なくなったことは、清子さんにとって一番辛いことだったそうです。たった一枚残った写真は、お父さんと二人で写っている写真でした。その後も原爆の影響と思われる病気に何度もなり、2016年に82歳で亡くなるまで証言活動を続けました。

私は清子さんの展示を原爆資料館で見た時に、どんなに友達や家族のことを想っていても、原爆は、身体だけでなく、心までも奪い去ってしまうのだと感じました。展示の中にはケロイドの写真や、放射能の影響で髪の毛が抜け落ちてしまった写真があり、見学することが辛くなるものもありました。

また、その恐ろしさは破壊力だけでなく、生き残った人々の生活にも色濃く残り続けます。差別や偏見を受けることで、被爆者であることを隠して生活される方もいるそうです。生き残ってしまったことを悔やまれる方もいるそうです。この話を聞いたとき、私は心臓がギュッと締め付けられるのを感じました。

この事業に参加するまで、私の住んでいる地域では、授業以外で原爆のことを見聞きする機会はほとんどありませんでした。世界で唯一の被爆国である日本に暮らしながら、過去の悲惨な事実から目を背けてはいけないと思います。

被爆された方の痛みや苦しみは、私たちが簡単に想像できるものではありません。しかし、今回の派遣事業に参加することで、戦争の恐ろしさ、平和の大切さ、それを伝え続けることの重要性を強く学びました。まずは家族や同級生

など、身近なところで話題にし、考え、その輪を広げて行きたいと思います。

最後に、原子爆弾の使用には国境を越えて色々な意見があります。「過去ばかり見ても仕方がない」という声も聞きますが、私は、その過去をないがしろにしないように、今を生きている私たちの世代の未来が、過去を生かし、原爆の恐ろしさを改めて考え、核兵器と戦争によって命を落とすことが絶対のない世界を作ることが、被爆者から受け継がれた私たちの使命だと思います。



(令和5年8月7日 本川小学校平和資料館にて)



## 私たちがつなぐ平和のバトン

山崎 陽世（中学2年生）

命の貴重さ、脆さをリアルに初めて突き付けられた。

梶本さんは当時女子大生で、実際に被爆しており、原爆を落とした人間に共に過ごした友人や居場所を一瞬にして奪われました。

そしていまはその原爆の怖さを伝えるための活動をしています。そんな梶本さんから聞いた言葉は、よく大人に言われるような聞き慣れた言葉だったのに、深く私の心に響きました。

私は戦争を実際に見たこともないし、参加したこともありません。なので、口では「二度と戦争を繰り返してはならない」などと言えてもどこか他人事のような感じがしていました。

しかし、今回広島平和記念資料館でみた、背中がケロイドだらけの男性の写真や、ボロボロの鉄兜と三輪車など、痛々しい「実物」をみて、初めて自分自身で、心の底から戦争を怖いと思えました。

ケロイドとは原爆の後遺症の一つで、熱傷の後傷面の修復のため形成されるはん痕組織が過剰に増殖し、あたかも蟹の甲と脚を皮膚面にはりつけたような、不規則な隆起を生ずる状態をいいます。原爆は、このように人々の体と心に深い傷を残しました。絶え間ないケロイドの痛みや度重なる手術は、体だけでなく心も衰弱させたそうです。

そんな、見せたくないであろう気持ちの悪いケロイドだらけの背中を、写真に撮らせている男性の気持ちを私は想像出来ませんでした。

そしてボロボロの三輪車は、いがぐり頭のてつたにしんいち鍍谷伸一ちゃん（当時3歳11か月）が乗っていたもので、この三輪車で遊んでいる時に被爆しました。全身に大けがや大火傷を負った伸一ちゃんは「水、水……」とうめきながらその日の晩亡くなったそうです。父親は、伸一ちゃんにこの鉄かぶとをかぶせて、亡くなってからも遊べるようにと三輪車とともに庭に埋めたそうです。まだまだ未来や夢や希望があったであろう歳の子の命がたったの10秒で奪われ、原爆で

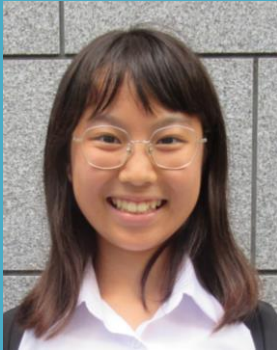
亡くなった大勢の一人になってしまうなんて、むなしいし、やるせないと思います。

私はこれらを見て、戦争を痛ましい、あってはならないと考えられる自分の立場を、幸せであり傲慢だとも思いました。

命の大切さや平和への思いを説いてくれる被爆者の方々は、現在高齢になっています。ケロイドの写真を撮らせてくれた男性。鉄兜や三輪車を資料館に寄贈して下さった親族、そんなひとたちの思いを繋いでいきたい。だから今回実際に話を聞き、資料を見て、戦争の恐ろしさを少しでも知れた私たちが、原爆の恐ろしさをみんなに伝え、考えられる機会をつくっていこう。今回の経験を通してそう胸に深く刻みました。



(広島平和記念資料館 寄贈者 鍔谷 信夫)



## 一步

荒井 美羽（中学1年生）

「広島物語」。去年の夏、この戦争ものの舞台に出演しました。稽古では原爆や戦争の資料を読み、より深い演技ができるよう努めました。そのため同世代の中では戦争についてはかなり詳しい方だと思っていました。

しかし実際に、広島で見聞きしたものに私は衝撃を受けました。私はまだまだ戦争に関して浅薄だったことを実感しました。この3日間を通して、私たちにできることはなにか。平和とはなにか。改めてそう考えさせられました。

私が特に心に残ったものは3つあります。1つ目は袋町小学校で見たあらゆるところに書かれている伝言です。我が子のために、友人のために、先生、児童のために。たくさんの方が大切な人を想って必死に伝言を書いている姿が目には浮かびました。なかには我が子が死んだ、という知らせが届いても、それを信じることができず伝言を書き続けた母親もいたそうです。

2つ目は平和記念資料館にある頭髪が抜け落ちた姉と弟の写真です。この写真の2人は幼い頃に被爆しすくすくと育っていましたが、ある時から体調に変化が現れたといいます。頭髪がたくさん抜けるため、父親に「抜けるところは全部抜いてくれ」と頼んだところ、髪の毛をすくただけですべてが抜け落ちてしまったそうです。この話を知ったとき、原爆は落ちたあとでも心身に深い傷を負わせる残酷なものだと改めて思いました。

3つ目は広島の復興です。私達が広島に着いたとき、78年前に原爆が落とされたとは思えないほどの一望無垠の景色がそこにはありました。たった78年間でこの景色まで復興したんだと感動しました。

現在、被爆者の方が減少している傾向にあります。また、原爆ドームなどその時代にあったものをそのままの形で残すことは難しいと考えられています。そのため次の世代へと私たちがバトンを繋いでいかなければいけないのです。

1945年8月6日午前8時15分、広島に原爆が投下されたという過去は変えることができません。しかし、未来を変えることはできます。今、未来を変える一步を踏み出すときなのです。私は自分が今いる小さな船橋から原爆の

悲惨さ、核兵器の恐ろしさを発信し、やがてそれが大きな力になることを願います。



(令和5年10月14日 平和の集いにて)



## 広島市原爆資料館

平山 晃（船橋市原爆被爆者の会）

私は、被爆者としては、最も若い世代であり、原爆投下直後に出生しております。復興を含め直接見聞き体験しています。

ですから、活動できるなら、出来るだけ次世代に原爆の悲惨さを伝える事が責務と思っています。

今回、5名の中高校生と共に『広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式』に参加する機会を得ました。今回の参加もそういう趣旨で参加させていただきました。

当たり前かもしれませんが、参加した中高校生はそれぞれ自分の意志で参加されたこともあり、高い見識をすでに持っていました。自分の意志で疑問を質問してきました。

原爆被災地は、何度訪れても胸が苦しくなります。自分たちが見聞きしたことが現実にそこにあるからです。

天神町の資料館にあった民家のちゃぶ台、通りを映したような写真に空色の影絵がありました。その日まで、普通の当たり前の日々が過ごされていたのです。影絵の人たちは、普通に生活していた風景なのです。



しかし、一瞬にして、その存在すら判らない、本当に死んだのかとすら確認出来ないことになったのです。

蒸発したり、多くは破損を防ぐため、そこかしこで、茶毘という死体処理が行われ、本人確認はされませんでした。

今、ウクライナでは、実際にウクライナ人やロシア人が、バタバタと亡くなっています。10月には、ハマスがイスラエルにこれまた無差別攻撃を加えました。2000人以上の方が亡くなっています。



その1人1人が普通の生活をしていて、お父さんやお母さんや子供たちと暮らしていたのです。あなた方と同じです。更にこのウクライナ侵略戦争で、核を脅しとして使っています。今よりもっと簡単に殺戮をして、生き残った人たちにも、放射能の脅威を一生植え付けようとしています。

この事は、”杞憂きゆう”ではなく”今ここにある危機”です。

他の者を威嚇し、その存在をも否定するという行動をしてまで、自分中心の考えを貫くことが許されるのでしょうか。

過去の実例を見ても、現状人類は、それほど賢くありません。

ロシア軍の侵略に対して、世界は懐疑的でした。ロシアはそれほど愚かでは無いと思っていました。国連の常任理事国という世界をリードする役割の国ですから。しかし、現実には、世界の大多数の安易な考えを吹き飛ばし、ミサイルを撃ち込み、過去ホロコーストと呼ばれたような残虐な行為を繰り返しています。原子炉を攻撃とか子供を誘拐とか、常識で考えられない行動です。

我々は核戦争の大元である核の廃絶を推進しなければなりません。それほど、賢くない人類の愚をやめさせなければなりません。

今回参加してくれた5人の方々、どうか見たままをお伝えください。私達は協力を惜しみません。

それから、こんな素敵な子供に育てて頂いた私の半分くらいの歳の若い親御様、「平和都市宣言」をした船橋で素晴らしいお子様に育てられました敬意を表します。

ありがとうございます。

《事前説明会の様子 令和5年7月21日》



広島市への派遣者計6名が初めて顔を合わせました。

派遣者の自己紹介や派遣への応募動機を公表してもらい、それぞれで役割分担を決めました。

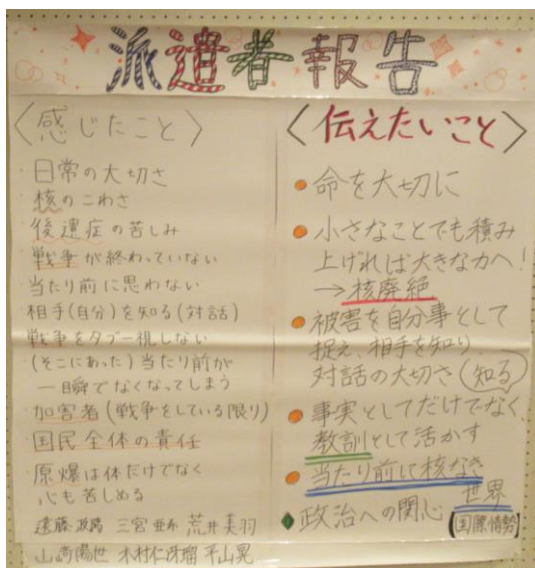
《市長報告会の様子 令和5年8月21日》



派遣者の一人ひとりから、現地で感じたこと、これから「平和の尊さ」を多くの人にそれぞれの立場で広めていきたいという決意などを市長に報告しました。

被爆者の会の方から被爆体験の話があり、市長を交えて平和について話し合いました。

報告会の後、派遣者同士で、今回の派遣事業を通し、具体的にどのようなことを伝えていきたいか話し合い、模造紙にまとめました。



## 《平和記念式典報告》

### 1. 概要

「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」は、毎年広島県広島市に原爆が投下された8月6日に、平和記念公園で行われる原爆死没者の霊を慰め、世界の恒久平和を願い、記念するための式典です。

原爆投下の8時15分に平和の鐘やサイレンを鳴らし、式典会場、家庭、職場で原爆死没者に哀悼の意を表し、あわせて恒久平和の実現を祈り、1分間の黙とうをします。式典は原爆死没者の遺族をはじめ、一般の方まで参列をし、広島市長による平和宣言が行われます。

### 2. 式典の様子

令和5年（2023年）の今年は新型コロナウイルスが5類に移行され、4年ぶりにコロナ禍前の規模となりました。約7000席の参列者席が用意され、一般席の入場も復活しました。

式典参列の際にはたくさんの方々が献花をされました。広島市長、県知事、被爆者の方々が現在の核兵器についての世界の現状など、これからの核なき世界に向けて、平和の大切さを世界に発信しました。心に訴えかける言葉がたくさんあり、感動すると同時に平和について深く考えさせられました。

そして黙とう時刻、8時15分には平和の鐘が鳴り、1分間の黙とうがされ、会場は静寂に包まれました。式典参列者の中には小学生や中学生、外国の方など国籍や人種を問わず、多くの方々が見受けられ、また、会場外ではデモ行進の音が聞こえたりもしました。そのような意味でも現地へ足を運んで実際にこの目で見て、肌で感じられたことによって様々なことを体験することができ、非常に貴重な機会となりました。

### 3. 式典を通して学んだ事

広島市長や県知事の言葉を聴いて自分自身がいかに原爆についてまだまだ無知であったかを思い知らされました。また、世界が平和へと向かうためには核抑止論から脱却しなければならないということもどれだけ重要であるか再認識しました。会場では広島市民の方々などが協力し、平和記念式典のために尽力されていて、広島市全体が一つになっていると実感しました。これからはそれが広島市全体で思いを一つにしていくのではなく、日本全国、最終的には全世界が一つになることを祈ります。そして一人ひとりが広島、長崎に原爆が投下されたという事実を自分事として捉えていかなければ、世界が恒久平和になる

ことは難しいかもしれませんが。世界のすべての人々が平和で安全に生きていける未来を創っていきましょう。まずはそれぞれ自分自身ができることから始めることが重要です。

#### 4. 次世代への継承

現在、ウクライナとロシアが戦争をしていて、中東やアフリカでも依然として内戦が起きている地域が残り、核がこれから使われてしまうかもしれない恐怖もでてきています。そんな中、今こそ核抑止論が破綻していると考え、核兵器廃絶を実行しなければならない分岐点に来ているのだと判断しなければなりません。そのために私たちは被爆者たちが語った体験や経験を自分事として受け止め、伝えていくことが必要です。それが家族や友人でも、一人ひとりができることから行動に移すことが必要です。誰もが戦争により罪のない人たちや生き物が無慈悲に命を落としていくのを望んでいるわけではないはずです。もう一度、広島や長崎の人たちと共に私たちは世界の恒久平和へ思いを向けて、世界へ伝えていき、最終的にすべての人が平和への思いを一つにしなければなりません。

#### 5. 感想

平和式典の中で、外国の方々がたくさん参列されているのを感じ、年々広島  
の原爆について興味を持つ人たちが増えてきているのではないかと嬉しい気持ち  
でいっぱいになりました。コロナ禍の前の状況に近い状態で開催されたことも  
一つの要因かもしれません。

核戦争を起こさないためにも一刻も早く核兵器廃絶を実現するため、核兵器  
がもたらす恐ろしさをもう一度理解し、それぞれができることを行動に移すこ  
とが大切だと考えます。今こそ、平和への思いを一つにするときです。

(木村 仁冴瑠)

≪令和5年広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式式次第≫

日時： 令和5年8月6日（日）8時00分 開式

場所： 平和記念公園

8：00 開式  
原爆死没者名簿奉納

8：03 式辞

8：08 献花

8：15 黙とう  
平和の鐘

8：16 平和宣言  
放鳩

8：24 平和への誓い

8：29 あいさつ

8：46 ひろしま平和の歌

8：50 閉式

## 《広島平和宣言》

78年前の原爆投下の日を、まるで生き地獄のようだったと振り返る当時8歳の被爆者は、「核兵器を保持する国の指導者たちは、広島、長崎の地を訪ね、自らの目で、耳で、被爆の実相を知る努力をしていただきたい。あの日、熱線<sup>や</sup>で灼かれ、瞬時に失われた命、誰からも看取られず、やけどや放射能症で苦しみながら失われていった命。こうして失われた数え切れない多数の人々の命の重さを、この地で感じてもらいたい。」と訴えています。

本年5月のG7広島サミットで各国首脳が平和記念資料館の視察や被爆者との対話を経て記帳された芳名録は、こうした被爆者の願いが各国首脳の心に届いていることの証しになると思います。また、慰霊碑を参拝された各国首脳に私から直接お伝えした碑文に込められた思い、すなわち、過去の悲しみに耐え、憎しみを乗り越えて、全人類の共存と繁栄を願い、真の世界平和を祈念する「ヒロシマの心」は、皆さんの心に深く刻まれているものと思います。こうした中、G7で初めて「核軍縮に関するG7首脳広島ビジョン」が独立の文書としてまとめられ、全ての者にとっての安全が損なわれない形での核兵器のない世界の実現が究極の目標であることが再確認されました。それとともに、各国は、核兵器が存在する限りにおいて、それを防衛目的に役立てるべきであるとの前提で安全保障政策をとっているとの考えが示されました。

しかし、核による威嚇を行う為政者がいるという現実を踏まえるならば、世界中の指導者は、核抑止論は破綻しているということ直視し、私たちを厳しい現実から理想へと導くための具体的な取組を早急に始める必要があるのではないのでしょうか。市民社会においては、一人一人が、被爆者の「こんな思いは他の誰にもさせてはならない」というメッセージに込められた人類愛や寛容の精神を共有するとともに、個人の尊厳や安全が損なわれない平和な世界の実現に向け、為政者に核抑止論から脱却を促すことがますます重要になっています。

かつて祖国インドの独立を達成するための活動において非暴力を貫いたガンジーは、「非暴力は人間に与えられた最大の武器であり、人間が発明した最強の武器よりも強い力を持つ」との言葉を残しています。また、国連総会では、平和に焦点を当てた国連文書として「平和の文化に関する行動計画」が採択されています。今、起こっている戦争を一刻も早く終結させるためには、世界中の為政者が、こうした言葉や行動計画を踏まえて行動するとともに、私たちもそれに呼応して立ち上がる必要があります。

そのため、例えば、私たちが日常生活の中で言葉や国籍、信条や性別を超えて感動を分かち合える音楽や美術、スポーツなどに接し、あるいは参加して「夢や希望がある」といった気持ちになれるような社会環境を整えることが重要となります。皆さん、そうした社会環境を整えるために、世界中に「平和文化」を根付かせる取組を広めていきましょう。そうすれば、市民の支持を必要とする為政者は、必ずや市民と共に平和な世界に向けて行動するようになると確信しています。

広島市は、世界166か国・地域の8,200を超える平和首長会議の加盟都市と共に、市民レベルでの交流を通して「平和文化」を世界中に広めます。そして、平和を願う私たちの総意が為政者の心に届き、武力によらず平和を維持する国際社会が実現する環境を作ることを目指しています。また、被爆者の平和への思いを世界中の若者に知ってもらい、国境を越えて広め、次世代に引き継げるようにするために、被爆の実相に関する本市の取組をさらに拡充していきます。

各国の為政者には、G7広島サミットに訪れた各国首脳に続き、広島を訪れ、平和への思いを発信していただきたい。その上で、市民社会が求める理想の実現に向け、核による威嚇を直ちに停止し、対話を通じた信頼関係に基づく安全保障体制の構築に向けて一步を踏み出すことを強く求めます。

日本政府には、被爆者を始めとする平和を願う国民の思いをしっかりと受け止め、核保有国と非核保有国との間で現に生じている分断を解消する橋渡し役を果たしていただきたい。そして、一刻も早く核兵器禁止条約の締約国となり、核兵器廃絶に向けた議論の共通基盤の形成に尽力するために、まずは本年11月に開催される第2回締約国会議にオブザーバー参加していただきたい。また、平均年齢が85歳を超え、心身に悪影響を及ぼす放射線により、生活面で様々な苦しみを抱える多くの被爆者の苦悩に寄り添い、被爆者支援策を充実することを強く求めます。

本日、被爆78周年の平和記念式典に当たり、原爆犠牲者の御霊に心から哀悼の誠を捧げるとともに、核兵器廃絶とその先にある世界恒久平和の実現に向け、被爆地長崎、そして思いを同じくする世界の人々と共に力を尽くすことを誓います。

令和5年(2023年)8月6日

広島市長 松井 一實

令和5年度

広島市平和式典派遣者報告書

令和5年12月発行

船橋市総務部総務法制課

Tel 047-436-2122

e-mail [shisomu@city.funabashi.lg.jp](mailto:shisomu@city.funabashi.lg.jp)